

令和2年度実施

中央区

---

---

地域活性化事業交付金

---

---

事業まとめ誌



---

---

相模原市 中央区役所

# 目次

---

---



「地域活性化事業交付金」について . . . . .	1
----------------------------	---

---

## 小山地区

・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . .	2
--	---

---

## 清新地区

・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . .	3
・災害時の安否確認と避難誘導のための小旗作成事業 . . . . .	4
・ポッチャを通じて触れ合う多世代交流事業 . . . . .	5
・清新地区飲酒運転根絶事業 . . . . .	6

---

## 横山地区

・緊急時における情報提供推進事業 . . . . .	7
・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . .	8

---

## 中央地区

・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . .	9
--	---

---

# 目次

---

---



## 星が丘地区

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . . 10
  - ・星が丘とその周辺地域を探検・散策するマップの作成事業 11
  - ・星が丘地区飲酒運転根絶事業 . . . . . 12
- 

## 光が丘地区

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . . 13
  - ・こども未来ワールド in 光が丘 . . . . . 14
- 

## 大野北地区

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . . 15
- 

## 田名地区

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . . 16
- 

## 上溝地区

- ・健康スポレクひろば事業 . . . . . 17
- ・小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進事業 . . . . . 18
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業 . . . . . 19
- ・ALL 上溝推進事業 . . . . . 20

## 「地域活性化事業交付金」について

地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

### 対象事業

- |                                  |                       |
|----------------------------------|-----------------------|
| ・地域の防災・防犯に関する事業                  | ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業 |
| ・地域福祉の増進に関する事業                   | ・産業や観光の振興に関する事業       |
| ・環境の保護・保全に関する事業                  | ・青少年の健全育成に関する事業       |
| ・地域の文化・伝統の振興に関する事業               | ・生涯学習に関する事業           |
| ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業         | ・区が推進する重点事業           |
| ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業 |                       |

### 優先的な交付対象事業

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ・自治会への加入促進           | ・地域における公共的な活動の担い手育成 |
| ・公共的な活動への参加者増加       | ・地域の公共的な活動団体間の連携強化  |
| ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決 |                     |

### 交付対象とならない事業

- |   |
|---|
| ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業                          |
| ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業           |
| ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業                          |
| ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。 |
| ・第三者への事業促進を求める事業                                  |
| ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業                      |

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。申請にあたっては、事業を実施する地区のまちづくりセンターへご相談ください。

当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末とします。また、同一の事業に継続して交付する場  
合については、3年を限度とします。ただし、まちづくり会議の意見を踏まえ、継続を必要と認める事業  
は、令和3年度までに限り4年目以降も継続して交付ができます。

交付金は、次の経費を交付対象とし、その交付率は10分の10以内とします。

- |  |
|--|
| ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等                                |
| ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、<br>備品購入費、施設使用料、備品借上料等 |
| ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等                                       |
| ・事業を行う上で必要な委託費等  |
| ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等                                     |
| ・講演会等の講師に対する報償費  |
| ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）              |
| ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの                              |

備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内となります。

同一の事業に継続して4年目以降も交付する場合（令和3年度まで）は、交付率を2分の1以内とします。  
ただし、区長が認めるときは、交付対象経費の10分の10以内とします。

# 小山地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

小山地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても「新しい生活様式」の実践が強く求められている。ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動の継続・充実を図ることを目的に、感染症対策に資する物品を配備するとともに、地域住民に対しては「新しい生活様式」、「コロナ禍における防災対策」の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図る。

## 2 内容

コロナ禍においても自治会活動を継続させるため、感染症対策に必要となる物品を各自治会の実情、希望に合わせて配備する。

地域住民に対して『「新しい生活様式」の実践』及び『コロナ禍における防災対策』の周知・啓発を図るため、チラシを作成し配布する。

総事業費：530,457円

うち交付金額：530,000円

## 3 成果と今後の展望

各自治会の希望に応じた感染症対策物品の配備により、一定程度の感染症への対策を講じたことで、コロナ禍においても地域コミュニティ活動の中核を担う自治会活動を完全に停滞させることなく、可能な限りの活動を継続することができるようになったと考える。

また、地域住民に対しても「新しい生活様式の実践」と「コロナ禍における防災対策」について、周知・啓発を講じることができた。

ポストコロナ環境においても、地域活動の停滞を回避すべく、感染症の動向を注視しながら、必要に応じて、新たな周知・啓発等の取り組みを継続していく。



配備物品



啓発チラシ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月27日	産業会館	9人	地区連・区役所会議：事業概要・実施方針決定
8月18日	小山公民館	6人	地区自治連役員会：取りまとめ方法等決定
8月22日	小山公民館	13人	地区自治連理事会：希望物品照会
9月17日 ～10月15日	小山公民館	28人	チラシデザイン検討・決定
11月上旬	各自治会内	-	チラシ納品及び配布 自治会を通じてから各戸配布 / 公民館等に配下
3月3日	-	-	地区内各自治会へ全物品配備完了

# 清新地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

清新地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても「新しい生活様式」の実践が強く求められている。ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動の継続・充実を図ることを目的に、感染症対策に資する物品を配備するとともに、地域住民に対しては「新しい生活様式」、「コロナ禍における防災対策」の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図る。

## 2 内容

清新地区自治会連合会及び地区内16自治会に、自治会活動における、新しい生活様式の導入に必要な感染症対策物品の配備を行う。

「新しい生活様式」の実践とコロナ禍の防災対策に関するチラシを作成し、自治会加入世帯へ配布することで、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：623,948円

うち交付金額：620,000円

## 3 成果と今後の展望

感染症対策物品の自治会集会所等活動拠点への配備により、「新しい生活様式」に対応した地域活動の支援が行えた。

また、コロナ禍の防災対策等に関するチラシを自治会加入世帯に全戸配布したことで、従来の自治会活動では想定してこなかった感染症に対する備えを講じることができた。

感染症防止対策を図るために経常的に必要となる物品については各自治会での予算立てを促していく。また、地域活動の停滞を回避すべく、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、状況に応じて周知啓発を行っていく。



啓発チラシ

### (参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
8月7日	8人	地区連役員会にて取りまとめ方法等決定
9月8日	18人	地区連自治会長会議で物品決定。チラシのデザイン決定
10月8日	2人	感染症対策物品納品
10月13日	16人	地区内自治会へ物品配布及び全戸配布
2月2日	5人	決算処理



# 清新地区「災害時の安否確認と避難誘導のための小旗作成事業」

災害時の避難行動を考える会

## 1 背景と目的

大規模地震はいつ起きてもおかしくない。それに対する訓練や備えは進めてはいるが、まだまだ十分とは言えない状況である。その中でも、発災時における正確で迅速な安否確認は重要であり、そのための準備や訓練が必要である。

大規模災害時において、自治会加入世帯の安否確認を迅速に行うことで、被害の全容を早急にとらえ、かつ被害を最小限にとどめられる。また、小旗を使った訓練を実施することにより、減災のためには自助・共助の取組みが必要であることを自覚してもらう。

さらに、防災に関する自治会の取組みを通じて自治会への加入促進を図る。

## 2 内容

- 「黄色い小旗」を作成し自治会加入世帯に配布し、大規模災害発生時において救助が不要な世帯に、玄関前・ポストなど外から見やすいところに掲示してもらい、安否確認を迅速に行うための訓練を行う。
- 「避難誘導旗」については、単一自治会の班等の体制が異なることから、今年度については、「黄色い小旗」とともにいくつかの自治会をモデルケースとして訓練を行う。

総事業費：280,000円

うち交付金額：280,000円

## 3 成果と今後の展望

自治会加入促進が課題となるなか、活動の「見える化」は自治会活動への理解、参加への動機付けなど各種の効果が期待される。

視覚的に目立つ黄色い「避難誘導旗」を先頭に誘導している姿は、コロナ禍で外出を控えている人が多いこの時期に、自治会加入促進としてのアピールにもなる。

コロナの状況が収まらず、今回は2自治会だけの参加であったが、災害時の対策だけでなく、「自助・共助」に対する地域住民の意識の高揚にも繋がる事業であると考えます。



訓練の様子

### (参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
11月5日	5人	計画等内容の検討
12月1日	5人	デザイン等内容の検討
12月15日	-	避難誘導旗の発注
1月8日	-	避難誘導旗納品
2月7日	30人	中央4丁目自治会の防災訓練で実施
3月7日	74人	清新7丁目自治会の防災訓練で実施

# 清新地区「ボッチャを通じて触れ合う多世代交流事業」

清新地区多世代交流促進会

## 1 背景と目的

少子化が急速に進んでいる中、子供たちの生活環境がスマホ中心の生活になってきており、地域において人と交流する機会が少なくなっている。一方、超高齢化社会の中、高齢者においては、隣近所であってもコミュニケーションをとる機会が少なくなることにより、人間関係が希薄化し、地域の中での孤立化が課題となっている。

ボッチャは子供も大人も、障害のある人もない人も、パワーのある人もない人も、誰でもプレーすることのできるユニバーサルなスポーツであり、令和3年に開催される東京パラリンピックの正式種目ともなっています。

このボッチャを活用して、障害の有無も含めた多世代の交流による地域での人と人のつながりを強化したい。今年度は、昨年度の反省点を踏まえコートづくりを工夫し、さらに子供たちが遊び感覚で楽しめるボッチャの場を提供し、特に、子供と高齢者が触れ合える地域づくりの場の構築へつなげ、地域の活性化を図る。

## 2 内容

講習会の開催

各種媒体によるPR活動

地域の公共的な活動団体（地区社協、地区健全協、公民館、PTA等）との連携活動

総事業費：92,190円

うち交付金額：62,000円

## 3 成果と今後の展望

小学校4年生を対象に行った体験授業は、学校側から依頼があった。昨年体験済みなので学校側で教えることが出来ていた。普及の糸口が見えている。

コロナ禍のため、高齢者等との接触はできなかったが、誰でも参加できるボッチャの体験を通じて、子供から高齢者までが触れ合える地域づくりの場の構築に向けて進んでいると思う。

東京パラリンピックの開催予定もあるため、コロナ禍での試合の方法等も参考にしながら、地域でもボッチャの大会を開催し、東京五輪の6番目の輪として触れ合いの輪を清新地区に広げたい。



小学校体験授業の様子

### (参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
11月17日	5人	ボッチャ検討会の開催
12月19日	-	ボッチャ道具及び備品購入 2セット
12月20日	-	ボッチャ道具及び備品をこどもセンターに配置 1セット
12月20日	-	ボッチャ道具及び備品を公民館に配置 1セット
2月25日	105人	小山小学校体験授業(4年生)



# 清新地区「清新地区飲酒運転根絶事業」

清新地区自治会連合会

## 1 背景と目的

飲酒運転は、重大事故に直結し、運転者本人だけでなく、被害者やその家族の人生をも大きく狂わせる極めて忌むべき行為だが、いまだ後を絶たない。全国的に減少傾向が続いていたものの、近年では減少幅が縮小しており、清新地区においても根絶には至っていない状況にある。

悲惨な交通事故を引き起こす飲酒運転根絶に向け、地域の交通安全意識の高揚を図り、飲酒運転を「しない・させない・ゆるさない」という環境づくりの推進を目的とする。

併せて、啓発のぼりを通じて活動団体間でのコミュニケーションを図り、連携を強化する。

## 2 内容

飲酒運転根絶のための啓発のぼりを16自治会各2本作成し、今年度は清新地区の自治会館、繁華街、公民館等へ掲出し各自治会の地域での反応を確認し、次年度については、昨年度の反省点等も踏まえ、交通安全キャンペーン等で活用し、チラシの作成も含め広報周知を図る。

総事業費：54,560円

うち交付金額：54,000円

## 3 成果と今後の展望

清新地区内の各自治会館や公民館等へ掲出し、注意喚起を図った。

また、地区内において、交通安全意識の高揚を図り、地域の連携にも繋がっている。新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、注意喚起・啓発等の取り組みを継続していく。



啓発のぼりの実物

### (参考) 実施経過

実施日	参加人数	内容
12月22日	8人	地区連役員会にて啓発のぼりのデザインの決定等
3月12日	-	啓発のぼり納品 32本
3月26日	16人	各地区へ配布・設置

# 横山地区「緊急時における情報提供推進事業」

みんなで見守る横山地区の会

## 1 背景と目的

昨今の大規模災害が各地で発生している中、被災時における避難場所や集合地点を普段から家族で話し合うことで防災意識の向上が図られ、避難先での本人情報の確認手段となる。また、日常的には救急救命時の処置に必要な情報の提供など、緊急事態発生時において必要な本人情報が正確迅速に伝達される。

## 2 内容

- 緊急情報提供シートA 3版に地区内の緊急連絡先を表示し、避難場所、災害時に家族が集まる場所等を手書きにより記載する。裏面には、家族の本人情報を記載し自宅内の救急隊がわかる場所などに表示または2つ折りにしてつるし掲示する。
- 安心避難カードは財布等に収納できるサイズとし、常時携帯する。両面には緊急連絡先など本人情報や災害時の避難先、家族の集合場所などを記載する。
- 周知ポスターやアンケートを作成し、災害発生時に備えた家庭内での話し合いや防災に対する意識の向上を促し、事業の定着化を図る。

総事業費：95,000円

うち交付金額：95,000円

## 3 成果と今後の展望

初年度に災害時等の避難場所や家族の連絡先などの情報を記載する緊急情報提供シートや安心避難カードを配布したが、実際に活用することが必要であることから、本年度は回覧やポスター、アンケートを作成し地域住民へ周知することにより事業の定着化や災害に対する意識の向上を図った。

今後はアンケート調査の結果に基づいて活用状況を確認し、実際にシートやカードへ記入することや携帯することを定着させるべく、啓蒙活動を行っていく。



横山公民館に設置した周知コーナー

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月～10月	公民館	延べ20人	まちづくり会議及び地域団体への説明
10月	公民館	延べ12人	回覧・ポスターの発注・納品・仕分け
11月	公民館	延べ10人	回覧及びポスターを配布
2月	公民館	延べ10人	アンケートの作成・印刷
3月	公民館	延べ5人	公民館に周知コーナーを設置 アンケートを配布

# 横山地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

横山地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症について、更なる流行が危惧される中、日常生活における「新しい生活様式」の実践が強く求められている。これは地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても例外ではなく、ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動における感染症対策に資する物品の用意や地域住民への「新しい生活様式」等の周知・啓発を通じて、今後懸念される流行に備えた感染拡大の防止を図るとともに、「新しい生活様式」を踏まえた自治会活動の継続・充実を図る。

## 2 内容

- 横山地区自治会連合会及び地区内23自治会に、自治会活動における「新しい生活様式」の導入に必要な感染症対策物品の配備を行う。
- 「新しい生活様式」の実践とコロナ禍における防災対策に関するリーフレットを作成し、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：670,000円

うち交付金額：670,000円

## 3 成果と今後の展望

自治会活動における新型コロナウイルス感染症対策に資する物品の配備や、コロナ禍における地域住民への「新しい生活様式」及び災害時の避難行動等について、リーフレットにより周知・啓発を行い、自治会活動の継続・充実を図るための感染症防止対策に寄与した。

今後、感染症対策物品の使用が頻繁となれば、各自治会の活動を支援する上で感染症対策は必須であり、補助金交付事業を利用したマスクや消毒液など消耗品の補充が必要となる。



「新しい生活様式」及び防災対策に関するリーフレット

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
8月25日	公民館	20人	第2回まちづくり会議：地域活性化事業交付金説明
9月9日	公民館	6人	地区自治連自治会長役員会：事業説明
9月18日	公民館	20人	地区自治連自治会長会議：事業説明
10月上旬	公民館	3人	リーフレット作成、感染症対策物品納品
10月10日	公民館	6人	地区自治連自治会長役員会 リーフレット・物品の確認
10月13日	公民館	20人	地区自治連自治会長会議で各自治会へ配布開始
10月下旬			配布完了



# 中央地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

中央地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の対策にあたっては、日常生活における「新しい生活様式」の実践が強く求められている。これは地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても例外ではなく、ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。そこで、自治会活動における感染症対策に資する物品の用意や地域住民への「新しい生活様式」等の周知・啓発を通じて、今後の感染拡大防止及び自治会活動の継続・充実を図ることを目的とするもの。

## 2 内容

- 中央地区自治会連合会及び地区内33自治会に、自治会活動における「新しい生活様式」の導入に必要な感染症対策物品の配備を行う。
- 「新しい生活様式」の実践とコロナ禍の防災対策に関するチラシを作成し、自治会加入世帯へ配布することで、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：727,060円

うち交付金額：727,000円

## 3 成果と今後の展望

本事業の実施により、感染症対策物品を自治会集会所などの地域活動拠点に配備したことで、「新しい生活様式」に対応した地域活動を支援することができた。また、コロナ禍の防災対策などに関するチラシを自治会加入世帯に全戸配布したことで、感染症対策及び防災対策の啓発にも寄与することができた。

今後ポストコロナ環境で経常的に必要となる物品については、各自治会での予算建てなども含めて検討してもらうよう促しをしていく。

また、「新しい生活様式」の実践や、コロナ禍における防災対策などに関しては、引き続き必要に応じて、自治会加入世帯をはじめとして、地域住民に対して周知・啓発などを行っていく。



(防災対策に関するチラシ)

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
8月6日	中央公民館	10人	地区自治連自治会長役員会：取りまとめ方法等決定
8月19日	中央公民館	35人	地区自治連自治会会長会議：希望物品紹介、チラシデザイン意見照会・決定
9月中旬	中央公民館	33人	チラシ作成、感染症対策物品納品
~10月31日	中央公民館	33人	地区内各自治会へ物品配備
令和3年1月	中央公民館	33人	各自治会において、加入自治会員宅に啓発チラシを個別配布

# 星が丘地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

星が丘地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症について、今後、第二波・第三波の流行が危惧される中、日常生活における「新しい生活様式」の実践が強く求められている。これは地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても例外ではなく、コロナ禍で人と人の繋がりの希薄化が懸念される状況において、ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。そこで、自治会活動における感染症対策に資する物品の用意や地域住民への「新しい生活様式」等の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図るとともに、「新しい生活様式」を踏まえた自治会活動の継続・充実を図ることを目的とし、事業を実施した。

## 2 内容

星が丘地区自治会連合会及び地区内14自治会に、自治会活動における「新しい生活様式」の導入に必要な感染症対策物品の配備を行う。

「新しい生活様式」の実践とコロナ禍の防災対策に関するチラシを作成し、自治会加入世帯へ配布することで、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：470,000円

うち交付金額：470,000円

## 3 成果と今後の展望

従来の自治会活動では想定してこなかった感染症に対する備えを、物品・啓発の両面で、地区内全自治会において講じることができた。

また、自治会が率先し対策を実施した「新しい生活様式」が自治会員にも広がり、コロナ禍においても自治会活動を完全に停滞させることなく、可能な限りの活動を継続することができるようになったと考える。

今後も、地域活動の停滞を回避すべく、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、必要に応じて、新たな周知・啓発等の取り組みを継続していく。



配備物品及び啓発チラシ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月27日	産業会館	9人	地区連・区役所会議：事業概要・実施方針決定
9月1日	公民館	4人	地区自治連自治会長役員会：取りまとめ方法等決定
10月1日	公民館	14人	地区自治連自治会長会議：希望物品照会、チラシデザイン意見照会・決定
11月上旬	公民館	3人	チラシ作成、感染症対策物品納品
~11月15日	公民館	14人	各自治会において、加入自治会員宅に啓発チラシを戸別配布
~12月25日	公民館	14人	地区内各自治会へ物品配備

# 星が丘地区「星が丘とその周辺地域を探検・散策するマップの作成事業」

星が丘周辺の地図を作成しその活用を進める会

## 1 背景と目的

この地域では、これまでに星が丘地域の歴史や情報を収集し、冊子やカルタにまとめて地域の人に広めたり、次世代に伝える活動を進めてきた。これらの情報を地図に表すことにより、この地図を持って地域を歩き回り、探検し、散策できるようにしたい。また、数種の散策コース等も設定し、『みんなで探ろう地域の歴史』等のイベントも実施し、健康作りに役立てるとともに、地域に対する興味を広げ、様々な世代がまちづくりへの関心を持つことに繋げる。

## 2 内容

- 星が丘地域とその周辺の歴史や様々な情報を表したA1判の地図を5,000部作成する。
- 地図の裏面には、その地点の写真や説明を記し、地域を理解することができるようにする。
- 地図を頼りにこの地域を散策する人の状況をみながら、地域を探索するイベント等を企画・実施するとともに、健康作りに役立てていきたい。
- 企画・編集は当会で進めるが、まちづくり会議の皆さんの意見を聞きながら進め、まちづくり会議と協力して発行する。
- マップは自治会加入世帯（約3700世帯）へ全戸配布する。その他希望者へは随時配布し、自治会未加入者へは自治会加入パンフレットと併せて渡す。

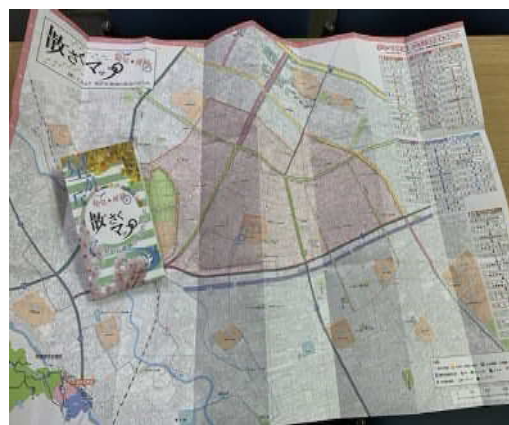
総事業費：682,786円

うち交付金額：681,000円

## 3 成果と今後の展望

これまで作成してきた「星が丘写真集」や「星が丘地域歴史資料集」「星が丘地域カルタ」の成果を統合したマップが出来上がり、地域の皆さんに大いに活用してもらえるものと思っている。完成前から期待している声を沢山いただき、地域づくりに貢献できたと感じている。

次年度以降も会の活動を続け、イベント等のお手伝いをしたいと考えている。



星が丘散策マップ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
～9月	公民館	8人	マップ作成の方向を確認、内容項目の検討。
9月～	公民館	8人	マップに掲載する内容項目の検討と説明の執筆。写真の撮影。散策コースの検討。
10月～	公民館	8人	印刷会社に原稿を入稿。以降、校正10回を繰り返しながら作成を進める。
1月30日	公民館	8人	最終原稿入稿。
2月22日	公民館	8人	マップ完成確認・配布準備。
3月上旬	公民館	6人	自治会を通して各家庭に配布。自治会未加入者へは公民館で配布。



# 星が丘地区「星が丘地区飲酒運転根絶事業」

星が丘地区自治会連合会

## 1 背景と目的

飲酒運転は、重大事故に直結し、運転者本人だけでなく、被害者やその家族の人生をも大きく狂わせる極めて忌むべき行為だが、いまだ後を絶たない。全国的に減少傾向が続いていたものの、近年では減少幅が縮小しており、星が丘地区においても根絶には至っていない状況にある。そこで、飲酒運転根絶に向け、地域の交通安全意識の高揚を図り、コロナ禍で自宅の近隣で飲酒をし事故が多発するのを防ぐため、注意喚起を促す。飲酒運転を「しない・させない・ゆるさない」という環境づくりの推進を目的とし、事業を実施した。

## 2 内容

飲酒運転根絶のための啓発のぼりを作成し、星が丘地区の自治会館や公民館等へ掲出するとともに、交通安全キャンペーン等で活用し、広報周知を図る。

各自治会2本程度のぼり旗を掲出する。

総事業費：47,740円

うち交付金額：47,000円

## 3 成果と今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響で、交通安全キャンペーン等が中止となり、イベントでは活用することができなかったが、会員の生活圏にある自治会館等へ掲示することで、コロナ禍で自宅の近隣で飲酒し事故が多発するのを防ぐ意識啓発となったと考える。

今後も、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、飲酒運転根絶に向けた注意喚起・啓発等の取り組みを継続していく。



啓発のぼり

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
10月26日	公民館	12名	地区連・警察情報交換会で事業説明
1月～2月	公民館	5名	啓発のぼりのデザインの検討・決定
3月3日	公民館	5名	業者へ発注
3月中旬	公民館	14名	地区内自治会へ物品配備

# 光が丘地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

光が丘地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても「新しい生活様式」の実践が強く求められている。ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動の継続・充実を図ることを目的に、感染症対策に資する物品を配備するとともに、地域住民に対しては「新しい生活様式」、「コロナ禍における防災対策」の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図る。

## 2 内容

光が丘地区自治会連合会及び地区内29自治会に、自治会活動における「新しい生活様式」の導入に必要な感染症対策物品の配備を行う。

コロナ禍における防災対策に関するチラシ・ポスターを作成し、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：880,170円

うち交付金額：880,000円

## 3 成果と今後の展望

感染症対策物品の集会所等活動拠点への配備に加え、災害時における分散避難などコロナ禍における防災対策に関するチラシ等を配布することにより、従来の自治会活動では想定してこなかった感染症に対する備えを物品・啓発の両面で講じることができた。

今後も感染症防止対策を図るために経常的に必要となる物品については、各自治会での予算立てを促していく。また、地域活動の停滞を回避すべく、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、状況に応じて、新たな周知・啓発等の取り組みを行っていく。



啓発チラシ・ポスター

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月27日	産業会館	9人	地区連・区役所会議：事業概要・実施方針決定
8月27日	光が丘公民館	9人	地区自治連役員会：実施方法等について協議
8月28日	光が丘公民館	8人	まちづくり会議役員会：実施方法等について承認
9月3日	光が丘公民館	35人	地区自治連自治会長会議：実施方法等について承認
9月4日	光が丘公民館	25人	まちづくり会議：実施方法等について承認
通年	-	-	地震対策、分散避難等に係るチラシを作成し、配布（チラシ4種、ポスター2種）
9月～3月	-	-	地区自治連及び単位自治会にて感染症対策物品を購入

# 光が丘地区「こども未来ワールドin光が丘」

こども未来ワールドin光が丘実行委員会

## 1 背景と目的

光が丘地区では地域活動の担い手不足が深刻なことから、中高校生が地域活動へ参加できる仕組みの構築を進めてきた。現在も地域の事業やイベントに数多くの中高校生がボランティアとして参加している。

しかし、担い手の高齢化が進んでいることから、次世代にどのように地域の伝統等を繋いでいくかが課題となっており、地域の中で若者世代が自主的に考え、行動する機会の提供が求められている。

## 2 内容

若者世代を含めた現役世代を中心に大人実行委員会を立ち上げ、企画運営に携わる小学校3年生以上のこども実行委員を募集し、応募してくれた小学生でこども実行委員会を立ち上げ、事業の企画・運営を行った。

コロナ禍における新しいこども未来ワールドを展開すべく、動画作成を企画し、PR動画をDVDに収め関係団体等に配布するとともに、SNSでの発信も実施した。

総事業費：319,828円

うち交付金額：150,000円

## 3 成果と今後の展望

子どもたちの自立性・協調性・考える力を養うことを本事業の目的としているが、限られた条件の中で子どもたちに事業を企画する機会を提供し、子どもたち自らが動画作成について協議し合う姿や、役割分担をきちんと果たし最後まで協力し合って成し遂げる姿を目の当たりにし、事業の目的は達成できたものと考えている。

今回参加した「こども実行委員」には、過酷な条件の中、一つの事業を成し遂げた達成感をもとに、来年度も継続して参加してもらいたいと考えている。希望としては「SDGs」のような社会問題を子どもの視点から捉え、今から取り組める活動を考案し、9年後に繋いでいけるよう現実的な未来ワールドを構築することも提案していきたい。



PR動画撮影時の様子

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
6月～3月	光が丘公民館	延37人	こども未来ワールドin光が丘 大人実行委員会 (全5回)
9月～3月	光が丘公民館	延110人	こども未来ワールドin光が丘 こども実行委員会 (全7回)
11月29日	緑が丘中学校 体育館	約30人	こども未来ワールドin光が丘 (動画撮影)



# 大野北地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

大野北地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が危惧される中、日常生活における「新しい生活様式」の実践が強く求められている。コロナ禍で人と人の繋がり希薄化が懸念される状況において、ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を実施するための備えが急務となっている。

そのため、自治会活動における感染症対策に資する物品の用意や地域住民への「新しい生活様式」等の周知・啓発を通じて、今後懸念される感染拡大の防止を図るとともに、「新しい生活様式」を踏まえた自治会活動の継続・充実を図る。

## 2 内容

○大野北地区自治会連合会及び地区内自治会に、自治会活動における「新しい生活様式」の実践に必要な感染症対策物品の配備を行う。

○「新しい生活様式」の実践とコロナ禍の防災対策に関するチラシを作成し、自治会加入世帯へ配布することで、地域住民への周知・啓発を行う。

総事業費：1,146,238円

うち交付金額：1,146,000円

## 3 成果と今後の展望

感染症対策物品の集会所等活動拠点への配備に加え、「新しい生活様式」の実践とコロナ禍の防災対策に関するチラシの自治会加入世帯への各戸配布により、従来の自治会活動では想定してこなかった感染症に対する備えを、物品・啓発の両面で講じることができた。

このことにより、コロナ禍においても自治会活動を完全に停滞させることなく、可能な限りの活動を継続することができた。

ポストコロナ環境で経常的に必要になる物品については、各自治会での予算措置を促すこととする。また、地域活動の停滞を回避すべく、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、必要に応じて、新たな周知・啓発等の取組を継続していく。



購入物品および啓発チラシ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月27日	産業会館	9人	地区連・区役所会議：事業概要・実施方針決定
8月21日	大野北 まちづくりセンター	36人	地区自治連自治会長会議：事業説明
8月下旬 ~9月上旬	大野北 まちづくりセンター	-	対策物品の発注
10月16日	大野北 まちづくりセンター	-	啓発チラシ納品
10月下旬	各自治会内	36人	啓発チラシの戸別配布
2月下旬	-	12人	対策物品の購入完了

# 田名地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

田名地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても「新しい生活様式」の実践が強く求められている。ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動の継続・充実を図ることを目的に、感染症対策に資する物品を配備するとともに、地域住民に対しては「新しい生活様式」、「コロナ禍における防災対策」の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図る。

## 2 内容

コロナ禍においても自治会活動を継続させるため、感染症対策に必要となる物品を各自治会の実情、希望に合わせて配備する。

地域住民に対して『「新しい生活様式」の実践』及び『コロナ禍における防災対策』の周知・啓発を図るため、チラシを作成し配布する。

総事業費：681,743円

うち交付金額：670,000円

## 3 成果と今後の展望

各自治会の希望に応じた感染症対策物品の配備により、一定程度の感染症への対策を講じたことで、コロナ禍においても地域コミュニティ活動の中核を担う自治会活動を完全に停滞させることなく、可能な限りの活動を継続することができるようになったと考える。

また、地域住民に対しても「新しい生活様式の実践」と「コロナ禍における防災対策」について、周知・啓発を講じることができた。

ポストコロナ環境においても、地域活動の停滞を回避すべく、感染症の動向を注視しながら、必要に応じて、新たな周知・啓発等の取り組みを継続していく。



配備物品（一部）および  
啓発チラシ

### （参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月7日	田名MC	5人	地区自治会連合会役員会：事業説明
9月14日	田名公民館	20人	地区自治会連合自治会長会議：事業説明
9月下旬	各自治会内	20人	感染症対策品納品・各自治会への配布開始
10月上旬	田名MC	2人	リーフレット作成
12月上旬	各自治会内	-	感染症対策品納品・各自治会への配布終了
12月中旬	-	-	リーフレット配布終了

# 上溝地区「健康スポレクひろば事業」

上溝地区社協サロン活動部会

## 1 背景と目的

高齢化の進行に伴う課題への対応や、地域活動への参加者の増加を図るため、住民が楽しんで参加できる「レクリエーションゲーム」や「ニュースポーツ」などを指導できる人材を育成することにより、普段あまり運動に親しんでいない高齢者の健康寿命の延伸や、地域活動の活性化に寄与する。

## 2 内容

30名を対象に全7回（うち2回は、昨年度未実施分）の「健康スポレクひろば」を開催し、人材育成を図る。

開催期間 令和2年9月18日（金）から令和3年3月19日（金）

開催時間 午前10時からの約2時間

開催場所 上溝公民館

総事業費：44,490円

うち交付金額：37,000円

## 3 成果と今後の展望

全7回開催予定のうち、5回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためやむなく中止とした。18名の参加があり、レクリエーション協会講師の指導のもと、レクリエーションゲームやニュースポーツを経験した。

高齢化が進む中、認知症予防や介護予防の観点から、普段運動する機会の少ない高齢者がレクリエーションゲームやニュースポーツに参加することで健康を増進し、ひいては健康寿命の延伸、地域活動の活性化につながるものと考えている。



ひろばの様子

### （参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月	上溝公民館	-	開催の周知、参加者募集、直前準備
9、10月	上溝公民館	延べ33人 (講師等含む)	スポレクひろばの開催(2回)



# 上溝地区「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進事業」

小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会

## 1 背景と目的

平成28年4月、小田急多摩線の延伸計画が国の交通政策審議会で意義あるプロジェクトと位置づけられたが、費用負担や採算性など多くの課題が指摘されている。

このため、小田急多摩線延伸計画を地域住民に広く周知し、関心を持ってもらい、計画の早期実現に向け、地域が一体となり積極的に取り組み、上溝地区の活性化や「賑わいのある住みよいまちづくり」の新たな創造を目的に事業を行うもの。

## 2 内容

上溝地区を希望にあふれ、賑わいのある、住みよいまちとして創生するため、自治会や商店街など地域が一体となり小田急多摩線延伸計画の周知と広報活動等に積極的に取り組む。

具体的には、（小田急多摩線）上溝駅開設の推進に必要な関係機関への要望・陳情活動や調査研究・情報収集活動、「横断幕」等を活用した広報宣伝活動等を実施する。

総事業費：33,000円

うち交付金額：16,000円

## 3 成果と今後の展望

地区住民の小田急多摩線延伸計画やまちづくり活動への関心を高めるため、様々な広報・周知活動（横断幕の設置等）により、協議会の活動についてPRすることができた。

また、活動を通じて、地区住民の小田急多摩線延伸計画やまちづくりへの関心を高めることができた。



横断幕設置状況

### （参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
10月	地区内	-	横断幕の作成
11月	地区内	-	横断幕の掲出

# 上溝地区「新型コロナウイルス感染症拡大に備えた自治会における感染症対策等推進事業」

上溝地区自治会連合会

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、地域のコミュニティ活動の中核を担う自治会活動においても「新しい生活様式」の実践が強く求められている。ウィズコロナ、アフターコロナ環境下でも安心して自治会活動を行える備えが急務となっている。

自治会活動の継続・充実を図ることを目的に、感染症対策に資する物品を配備するとともに、地域住民に対しては「新しい生活様式」の実践及び「コロナ禍における防災対策」の周知・啓発を通じて、今後懸念される第二波・第三波に備えた感染拡大の防止を図る。

## 2 内容

コロナ禍においても自治会活動を継続させるため、感染症対策に必要となる物品を各自治会の実情、希望に合わせて配備する。

地域住民に対して「新しい生活様式」の実践及び「コロナ禍における防災対策」の周知啓発を図るため、チラシを作成し配布する。

総事業費：690,146円

うち交付金額：690,000円

## 3 成果と今後の展望

各自治会の希望に応じた感染症対策物品の配備により、一定程度の感染症への対策を講じたことで、コロナ禍においても地域コミュニティ活動の中核を担う自治会活動を完全に停滞させることなく、可能な限りの活動を継続することができるようになったと考える。

また、地域住民に対しても「新しい生活様式の実践」と「コロナ禍における防災対策」について、周知・啓発を講じることができた。

ポストコロナ環境においても、地域活動の停滞を回避すべく、感染症の動向を注視しながら、必要に応じて、新たな周知・啓発等の取り組みを継続していく。



啓発チラシ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月27日	産業会館	9人	地区連・区役所会議：事業概要・実施方針決定
9月10日	上溝公民館	19人	地区自治連自治会長会議：事業説明
10月上旬	-	1人	啓発チラシ作成
10月8日～	地区内	16人	各自治会において、加入自治会員宅に啓発チラシを回覧
～11月30日	地区内	16人	地区内各自治会へ物品配備
～1月中旬	地区内	2人	地区連感染症対策物品配備

# 上溝地区「ALL上溝推進事業」

上溝地区自治会連合会

## 1 背景と目的

上溝地区では、令和元年度から、地域振興イベントの開催にあたって、地区内の総力をあげて取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う「新しい生活様式」に則しながらも、地域コミュニティの形成に資する取組を継続して実施していくことが求められている。

地区内の団体が総ぐるみになり、四季を通じた地域振興イベントの開催などの町おこしに取り組むことにより、上溝地区だけでなく、区や市のブランドイメージの向上とシビックプライドの高揚に寄与するとともに、交流人口と定住人口の増加を促す。

また、コロナ禍においても人と人との繋がりを保つことができるような事業の展開に取り組んでいる。

## 2 内容

地域活性化イベントの開催・参加にあたっては、自治会連合会を中心に、上溝の総力をあげて「ALL上溝」の精神で取り組む意識を醸成し、地域一丸となって上溝地区、中央区、相模原市の活性化に取り組んでいく。また、自治会への加入促進はもとより、地域活動の担い手の増加に向けて各種イベントを「ALL上溝」で楽しく盛り上げるため、子どもから高齢者まで参加できる交流イベントに必要な備品・消耗品を用意し、活用していく。あわせて、毎年3月に行われる自治会加入促進キャンペーンの時期を捉えて、コロナ禍における人と人との繋がりの保持を目的とした「缶バッジ」を作成し、自治会加入世帯等への配布を行う。

10月 上溝サンマ祭り

11月 上溝お芋フェスティバル

3月 上溝さくらまつり（自治会加入促進キャンペーン）

総事業費：689,709円

うち交付金額：554,000円

## 3 成果と今後の展望

自治会への加入促進はもとより、地域活動の担い手の増加に向けて各種イベントを「ALL上溝」で楽しく盛り上げるため、子どもから高齢者まで参加できる交流イベントに必要な横断幕やPOP作成用ラミネーター、模擬店用備品等を購入した。購入した備品等を活用し、「上溝サンマまつり」及び「上溝お芋フェスティバル」をそれぞれテイクアウト限定で開催した。

コロナ禍においても人と人との繋がりを保つことができるよう、「コロナに負けるな!」、「花粉症です」の缶バッジを作成し、住民に配布した。予定していた事業のうち「上溝さくらまつり」は開催中止となった。今回実施出来なかった企画については、来年度の実施に向けて着実に準備をしたい。

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
10月4日	上溝さくら公園	600人	上溝サンマまつり
11月29日	上溝さくら公園	480人	上溝お芋フェスティバル
3月27日	上溝さくら公園	-	上溝さくらまつり（中止）



上溝サンマまつりチラシ

---

---

令和 2 年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

---

---

発 行 令和 3 年 5 月

編 集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央 2 丁目 1 1 番 1 5 号 (市役所本館 1 階)

お問い合わせ先

中央 6 地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941